

社団法人心理学会研究集会等助成金成果報告書

<p>代表者氏名 (ふりがな)</p>	<p>岡林 春雄 (おかばやし はるお)</p>	<p>所属</p>	<p>山梨大学教育人間科学部</p>
<p>成果概要</p>	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 24 名 (うち認定心理士 2 名) 非会員 8 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>実施内容： 日本心理学会第 74 回大会 (大阪大学、9 月 21 日) において、 WS056 「生体ゆらぎのダイナミクスとその解析 —IEEE: Franklin V. Taylor Memorial Award 受賞記念—」</p> <p>を実施。苗 鉄軍氏 (CCI, カオテック研究所) ならびに雄山真弓氏 (大阪大学) から生体情報 (この場合は、指尖容積脈波) のダイナミックリズムは、ランダムではなく決定論的法則をもつカオスであることが実際のデータから示され、指尖容積脈波と心理的情動変化の関係を測定できる可能性が示唆された。今後、この研究成果は、認知症者への対応、うつ病患者への治療等々に生かすことが議論された。指定討論者は、千野直仁氏 (愛知学院大学)、河合優年氏 (武庫川女子大学教育研究所)、鈴木平氏 (桜美林大学)、司会は岡林春雄 (山梨大学) であり、参加者は延べ 50 人であった。</p> <p>成果： 上記ワークショップは、心身相関という観点からしても人間の発達を考える際、重要な意味をもっている。ダイナミカルシステムという観点が発達を考える際、ぜひとも必要な知見となるであろう。生体情報のダイナミックリズム (例. 指尖容積脈波) を非線形解析して得られる最大リアプノフ指数は、認知症やうつ病のような病気だけでなく、子どもの成長、精神的な健康を考える上でも重要な指標になることが予想されるので、将来的には、人間のダイナミカルシステムのモデル化を目指してみたい。そのためにも、本研究会は、日ごろから研鑽をつみたい。</p> <p>本研究会は、上記ワークショップ以外にもメンバーで会合をもち、方向性を確認している。さらに、研修会を開き、ダイナミカルシステム理論の向上に努めている。</p>		